

クリナップ®



大切な日々を育んでいく。
それにふさわしい品質や強さ、
デザインや使い勝手を突き詰めて。

STEDIA
ステディア

天然木
ワークトップ
新登場!



クリナップ®

キッチンから、笑顔をつくろう

株主の皆さんへ 第73期 中間報告書

2025年4月1日から 2025年9月30日まで

クリナップ®株式会社

〒116-8587 東京都荒川区西日暮里6-22-22



ミックス

紙 | 責任ある森林

管理を支えています

FSC®

C013080

証券コード 7955

株主の皆さんへ

代表取締役会長
井上 強一代表取締役社長執行役員
竹内 宏

■ 企業理念

家族の笑顔を創ります

■ 行動理念

私たちは、心豊かな食・住文化を創ります

私たちは、公正で誠実な企業活動を貫きます

私たちは、自らの家族に誇れる企業を創ります

厳しい事業環境下、当上期の増収増益を基礎に、 通期においても増収増益を目指す

当社グループが属する住宅設備機器業界では、法改正による駆け込み需要の反動により、新設住宅着工戸数が4～5月にかけて大幅に減少し、その後も前年同月比を10%前後下回る低調な推移となり、原材料価格や物流コスト、人件費等の上昇も相まって、厳しい状況で推移しました。

こうした状況下ではありましたが、当上期の連結業績は増収増益となりました。売上高は、商品政策や販促政策が奏功し、前年同期比2.9%増となりました。利益面では、引き続き原材料価格や人件費等が上昇した一方で、販売価格改定効果の顕在化等の影響により売上高総利益率が上昇し、販管費の増加を吸収したことで、営業利益は前年同期比256.5%増となりました。

通期の連結業績見通しにつきましては、売上高は前期比

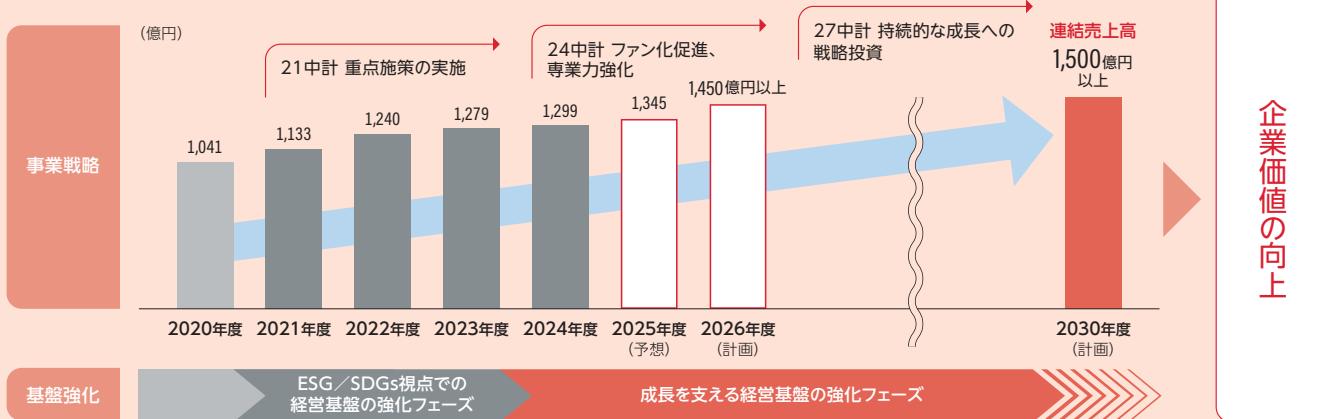
3.5%増の1,345億円、営業利益は同20.7%増の25億円を見込んでおります。経営環境は、不安定な国際情勢、原材料/資材価格や人件費等の上昇継続もあり、依然として先行き不透明な状況で推移するものと思われますが、引き続き、中期経営計画を柱とした取り組みを推し進め、少しでも予想を上回る業績の達成を目指してまいります。

『24中計』の2年目は、中核商品である「STEDIA」を刷新し、中長期的な成長基盤を強化

当社グループでは、2021年に長期ビジョン『クリナップサステナブルビジョン2030(CSV30)“人と暮らしの未来を拓く”』を策定し、3つ(21中計、24中計、27中計)の中期経営計画でこの実現を目指しております。現在は、第2ステップの「2024中期経営計画」(2024-2026年度)の2年目となります。

長期ビジョン

クリナップ サステナブルビジョン2030(CSV30) 戦略シナリオ大枠



『24中計』では、特に重要な戦略として、「住空間への提供価値をキッチンからサニタリーへ展開、新たな価値を提供」という方針を掲げ、『24中計』初年度は、この前年に刷新したフラッグシップシステムキッチン「CENTRO」の拡販と、システムバスルームの刷新を行いました。そして、2年目は、この方針に沿って、中高級価格帯システムキッチン「STEDIA(ステディア)」の刷新を行いました(詳しくはP3参照)。当社にとって「STEDIA」は、最も重要な中核商品であり、中長期的な成長の大きなカギを握っていると考えております。1983年に発売し、業界随一のロングセラーとなった「クリンレディ」の系譜を引き継ぎ、“業界No.1キッチン”へと育成してまいります。

多様な一人ひとりが輝く職場から イノベーションを創出し、企業価値の向上へつなげる

長期ビジョン『CSV30』の実現に向けて、最も重要な資本は“人的資本”すなわち社員です。この認識のもと、「クリナップグループ全社員の笑顔に満ちた毎日をつくる」をミッションとし、「ホンネを伝え、認め合い、多様な一人ひとりが輝く」未来を目指すことなどを明文化した『Cleanup DEI Statement』(P6参照)を策定しました。今後、DEI(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)の浸透により多様性が息づいた職場から多様なイノベーションが創出され、それが当社グループの持続的成長を生み出し、ひいては企業価値の向上へつながっていくものと確信しております。

株主の皆さんには、当社グループの全社員一丸となった挑戦と、その先に生み出される新たな価値にご期待いただくとともに、引き続きご支援ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



主なトピックス

商品関連

STEDIA

意匠性と機能性を向上させ、 2025年9月1日より受注開始

主力のシステムキッチン「STEDIA」のリニューアルを行い、9月1日から受注を開始しました。

木質内装建材のパイオニアである朝日ウッドテック株式会社と共同開発した「天然木ワークトップ」、排水口掃除の手間を軽減するために開発した「かってにクリントラップ」をラインナップしました。

リニューアルポイント
「居心地の良さ」と「キレイ」を軸にした
提案価値の向上

居心地の良さ

「天然木ワークトップ」を 朝日ウッドテック株式会社と共同開発

天然木の質感を活かした「挽き板」に新開発の塗装を施すことでキッチンでの調理作業などに必要な耐傷性・耐水性を向上させ、天然木ワークトップを実現。



キレイ

「かってにクリントラップ」を新開発

排水口掃除の手間を軽減する新機能。
排水トラップ内部に溜まる水を、水流で定期的に入替え、排水トラップ部分のヌメリの発生を抑制。



プロがおすすめしたい住宅設備キッチン部門
4年連続総合1位!

リフォーム営業マン・プランナーが選ぶ設備建材

リフォーム大賞2025

(リフォーム産業新聞調べ調査期間:2025年3月24日~4月25日)

STEDIA
ステディア

営業関連

キャンペーン

「キレイ体感フェア」 全国一斉開催!

新「STEDIA」の受注開始にあわせ、「キレイ体感フェア」を一斉開催しました。

- 2025年9月19日(金)・20日(土)
- 全国のクリナップショールーム



「キレイ」のある暮らし応援キャンペーンを開催!



システムバスルーム「SELEVIA(セレヴィア)」がお得に購入いただけるキャンペーンを開催しました。

- 2025年9月30日納品分まで
- 全国のクリナップショールーム

ショールーム

2026年3月期上期は、1拠点(千葉ショールーム)を刷新 ショールームの持続的な魅力アップに向け、 リニューアルを継続展開

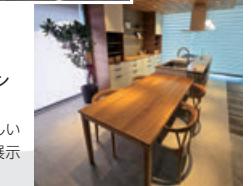
<主な特徴>

生活価値提案の充実を目的に、ライフスタイルがイメージしやすいショールームに

- ライフスタイルがイメージできる空間提案コーナーの充実
- マンションサイズや対応部材を取り揃えた県下最大のシステムバスルームコーナー
- 「天然木ワークトップ」を搭載した新「STEDIA」と、老舗家具メーカーとのコラボから生まれた「HIROMA」をつかったマンションリフォームコーナーの新設



千葉ショールーム
9月19日(金)
リニューアルオープン



天然木が美しい
STEDIA展示

WEB-CM

「ファン化促進」に向けて、 WEB-CMを強化

新「STEDIA」に搭載の新機能などを、4篇を追加し紹介。



- “驚き(びっくり)”と“クリナップ”を掛け合わせ
- スピード感のあるストーリー仕立ての15秒
- 魅力的なアイテムをコミカルに紹介

天然木ワークトップ篇

天然木の魅力を活かした、強く、美しく、お手入れがしやすいワークトップ。10年、20年と使うほどに愛着が深まる、あなただけの温もりのあるキッチンを。

主なトピックス

食文化コミュニケーション関連

**未来キッチン
プロジェクト**

**「未来キッチンイラストコンテスト」
第3回開催**

第3回「未来キッチンイラストコンテスト」
(応募期間:2025年6月1日~10月15日)

第3回開催を迎えた「未来キッチンイラストコンテスト」は、今回より新たに全国のクリナップショールームでも、作品応募を受け付けました。



**キッチン
白書**

**「調理の場」から「楽しさを発信する基地」へ?
「キッチン白書2025」公開**

「キッチンから見た生活者の“いま”」を紐解く

今回のテーマは「自宅での料理に関する意識」です。調理時間の時短化が進む一方、調理を合理化しながらも、一手間かけて楽しむ層が浮き彫りになりました。



料理教室

**はばたけラボ主催
「夏休み子ども料理教室」に協力**

笑顔があふれるスイーツづくり

(キッチンタウン・東京にて)



今回の講師は、Dreamia Club*でも活躍中のサロネーゼ、山岡真千子先生が担当。子どもたちは先生の指導のもと、「フルーツどら焼き」と「いちごと甘酒のスムージー」づくりに挑戦しました。

*Dreamia Club:当社が運営する食・住文化の情報発信をする組織。

ESG経営／SDGsへの取り組み

ESG経営

**持続可能な成長に向けた
取り組み**

DEI Statement発表

より多様な働き方と人材活用促進のため、2025年5月にDEI Statementを発表しました。

● Cleanup DEI Statement

Mission	クリナップグループ全社員の笑顔に満ちた毎日を創る
Vision	個々の違いをチームの力にするために ホンネを伝え、認め合い 多様な一人ひとりが輝く
Value	対話 尊重 成長 挑戦・活躍・キャリアを切磋琢磨し支え合おう 感謝の心で知恵と才能を活かし合おう



「サステナビリティレポート2025」発行

持続可能な社会の実現に貢献する当社の取り組みをまとめた「サステナビリティレポート2025」を発行し、2025年9月18日よりホームページにて公開しています。



<本レポートへの主な新・掲載要素>

●新「STEDIA」をSDGs視点から紹介 ●DEI担当役員インタビュー等

**スポーツ
振興**

**クリナップレスリング部
所属選手の活躍**

世界チャンピオン2名誕生!

9月にクロアチアで開催された「2025年レスリング世界選手権」で、青柳善の輔選手、石井亜海選手が優勝!クリナップレスリング部から初めての世界チャンピオンが、2名も同時に誕生しました。



(左)
青柳善の輔選手／
男子フリー70kg級

(右)
石井亜海選手／
女子68kg級

**前田監督、青柳選手、石井選手が
文部科学大臣表彰を受賞**

文部科学大臣顕彰・表彰式において、スポーツ功労者顕彰および国際競技大会優秀者表彰を受けました。

今回の受賞は、昨年9月にアルバニア・ティラナで開催された「2024年レスリング世界選手権」にて、石井選手(育英大/当時)が金メダル、青柳選手が銀メダルを獲得した功績が認められたものです。



左から前田監督、青柳選手、石井選手

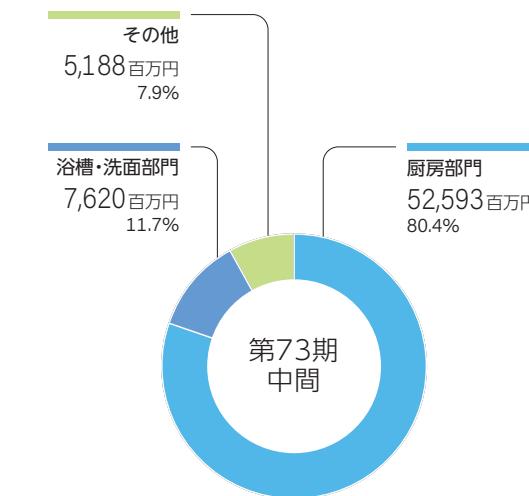
連結ハイライト情報／連結部門別情報



■ 連結財務ハイライト

	(百万円)		
	第72期中間 2025年3月期中間	第72期 2025年3月期	第73期中間 2026年3月期中間
売上高	63,531	129,987	65,401
営業利益	379	2,070	1,351
経常利益	616	2,621	1,663
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益	256	1,719	1,005
総資産	90,504	90,485	90,191
純資産	56,433	57,097	58,030

■ 部門別売上高（連結）



厨房部門の主な商品

高級クラスのシステムキッチン「CENTRO(セントロ)」、中高級クラスの「STEDIA(ステディア)」、普及クラスの「ラクエラ」、マンション向けシステムキッチン、セクショナルキッチン等で構成されております。

浴槽・洗面部門の主な商品

中高級クラスのシステムバスルーム「SELEVIA(セレヴィア)」、普及クラスの「rakuvia(ラクヴィア)」等の浴槽関連商品と、洗面化粧台等で構成されております。

第73期中間連結会計期間の営業概況

市場環境

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調で推移する一方、アメリカの政策動向や為替変動、中東・ウクライナなどの地政学リスク、原材料価格高騰による物価上昇など、先行き不透明な状況が継続しております。

業績・成果

このような中、当社グループは、2年目を迎えた「2024中期経営計画」(2024-2026年度)に則り、「ファン化促進」「専業力強化」を進め、企業価値の向上に努めてまいりました。

商品面では、高級価格帯システムキッチン「CENTRO(セントロ)」や、2025年9月にリニューアルした中高級価格帯システムキッチン「STEDIA(ステディア)」を中心に、付加価値の高い商品を市場に提供してまいりました。また、システムバスルームにおいては、「SELEVIA(セレヴィア)」及び「rakuvia(ラクヴィア)」のさらなる定着・拡販に注力しました。

販売面では、大切な顧客接点であるショールームでの価値提供強化を図るため、2025年9月に千葉ショールームをリニューアルオープンしました。さらに、会員制リフォームネットワーク「水まわり工房」加盟店と連携してイベント開催を行ってまいりました。また、「オンライン相談」

※VE活動: VE(Value Engineering)は、商品・サービスの期待される機能・価格を最低コストで確実に達成するための技術であり、VE活動は生産の現場におけるVE実現に向けた取り組み。

住宅設備機器業界におきましては、建築費高騰等により住宅取得マインドが鈍化し、新設住宅着工戸数が低水準にて推移する厳しい状況が続いております。

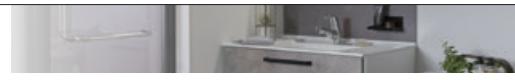
や「オンラインショールーム」などのWebコンテンツの提供にも継続的に取り組んでまいりました。

生産面では、東西の生産拠点での生産性向上、VE活動*を推進し、原価低減に努めてまいりました。

当中間連結会計期間の売上高を部門別にみると、厨房部門は前年同期比2.7%増の525億93百万円、浴槽・洗面部門は同1.7%増の76億20百万円となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は、前年同期比2.9%増の654億1百万円となりました。利益面では、原材料価格や人件費等の上昇が続いておりますが、販売価格改定効果の顕在化等の影響により売上総利益率が上昇し、販管費の増加を吸収したこと、営業利益は同256.5%増の13億51百万円、経常利益は同170.0%増の16億63百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は同292.2%増の10億5百万円となりました。

連結財務諸表

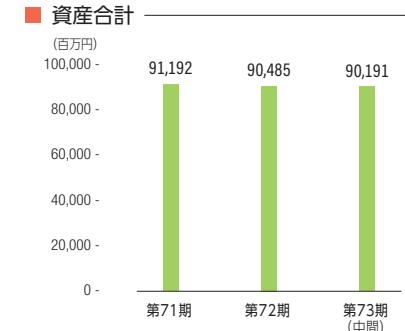


連結貸借対照表の要旨

流動資産 流動資産は前期末比8億86百万円減少し、545億81百万円となりました。これは現金及び預金が17億52百万円減少した一方、受取手形、売掛金及び契約資産が5億99百万円増加したこと等によります。

固定資産 固定資産は前期末比5億91百万円増加し、356億10百万円となりました。これは投資その他の資産が9億26百万円増加した一方、無形固定資産が3億40百万円減少したこと等によります。

資産合計 総資産は前期末比2億94百万円減少し、901億91百万円となりました。



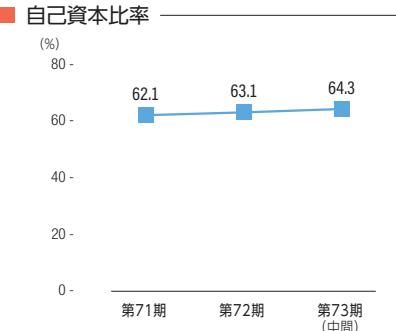
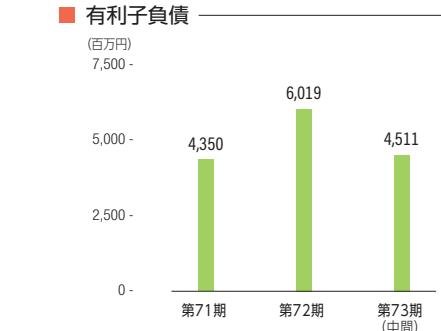
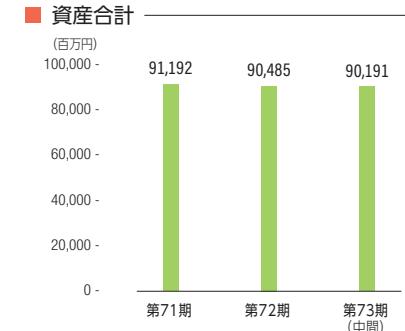
	第72期 中間 2024年9月30日現在	第73期 中間 2025年9月30日現在	第72期 2025年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産	54,948	54,581	55,467
現金及び預金	18,534	17,015	18,767
受取手形、売掛金及び契約資産	15,088	16,200	15,601
電子記録債権	15,113	15,620	15,749
その他	6,210	5,744	5,348
固定資産	35,556	35,610	35,018
有形固定資産	21,536	21,345	21,338
建物及び構築物	7,260	7,566	7,692
その他	14,275	13,778	13,646
無形固定資産	5,660	5,287	5,628
投資その他の資産	8,359	8,977	8,051
投資有価証券	4,802	5,667	4,811
退職給付に係る資産	741	562	466
その他	2,931	2,797	2,823
貸倒引当金	△ 116	△ 50	△ 50
資産合計	90,504	90,191	90,485

	第72期 中間 2024年9月30日現在	第73期 中間 2025年9月30日現在	第72期 2025年3月31日現在
(負債の部)			
流動負債	27,098	27,381	27,812
買掛金	7,446	7,863	7,480
電子記録債務	8,301	7,072	6,761
短期借入金	3,015	3,674	4,179
その他	8,335	8,771	9,391
固定負債	6,972	4,778	5,575
長期借入金	3,011	837	1,840
役員退職慰労引当金	402	402	402
その他	3,557	3,538	3,332
負債合計	34,070	32,160	33,388
(純資産の部)			
株主資本	54,174	55,523	55,167
資本金	13,267	13,267	13,267
資本剰余金	12,351	12,351	12,351
利益剰余金	29,615	30,965	30,609
自己株式	△ 1,060	△ 1,060	△ 1,060
その他の包括利益累計額	2,259	2,507	1,929
その他有価証券評価差額金	2,085	2,667	2,048
為替換算調整勘定	328	211	289
退職給付に係る調整累計額	△ 154	△ 371	△ 409
純資産合計	56,433	58,030	57,097
負債純資産合計	90,504	90,191	90,485

流動負債 流動負債は前期末比4億30百万円減少し、273億81百万円となりました。これは短期借入金が5億4百万円、未払金が3億93百万円減少した一方、買掛金が3億82百万円増加したこと等によります。

固定負債 固定負債は前期末比7億96百万円減少し、47億78百万円となりました。これは長期借入金が10億3百万円減少したこと等によります。

純資産合計 純資産合計は前期末比9億33百万円増加し、580億30百万円となりました。これは親会社株主に帰属する中間純利益が10億5百万円、配当金の支払が6億49百万円、その他有価証券評価差額金の増加が6億18百万円あったこと等によります。この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の63.1%から64.3%になりました。



連結財務諸表



■ 連結損益計算書及び連結包括利益計算書の要旨 (百万円)

売上高 高級価格帯システムキッチン「CENTRO(セントロ)」の販売数・販売価格がいずれも好調により、売上高は前年同期に比べ2.9%増の654億1百万円となりました。

売上原価 原材料価格の上昇があったものの、売上総利益の増加により、売上原価率が前年同期比1.3ポイント低下し67.4%となりました。

販管費 人件費、一般管理費の増加により販管費は前年同期比4億30百万円増加しました。また、販管费率は同0.2ポイント低下し30.5%となりました。

営業利益 原材料価格や人件費等の上昇が続いておりますが、販売価格改定効果の顕在化等の影響により売上総利益率が上昇し、販管費の増加を吸収したことで、営業利益は前年同期比256.5%増の13億51百万円となりました。

親会社株主に帰属する中間純利益 親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比292.2%増の10億5百万円となりました。

(連結損益計算書)

	第72期中間 2024年4月 1日～ 2024年9月30日	第73期中間 2025年4月 1日～ 2025年9月30日	第72期 2024年4月 1日～ 2025年3月31日
売上高	63,531	65,401	129,987
売上原価	43,631	44,099	88,864
売上総利益	19,899	21,302	41,123
販売費及び一般管理費	19,520	19,950	39,052
営業利益	379	1,351	2,070
営業外収益	297	357	669
営業外費用	60	45	119
経常利益	616	1,663	2,621
特別利益	2	0	61
特別損失	43	106	191
税金等調整前中間(当期)純利益	575	1,558	2,490
法人税等	319	553	771
中間(当期)純利益	256	1,005	1,719
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益	256	1,005	1,719
(連結包括利益計算書)			
中間(当期)純利益	256	1,005	1,719
その他の包括利益	157	577	△ 173
中間包括利益(包括利益)	413	1,582	1,546

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (百万円)

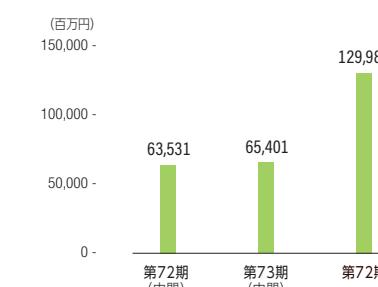
営業活動によるキャッシュ・フロー 営業活動の結果得られた資金は23億59百万円(前年同期比11.3%増)となりました。これは税金等調整前中間純利益が15億58百万円、減価償却費が22億23百万円、仕入債務の増加が6億93百万円あった一方、棚卸資産の増加が7億94百万円、売上債権の増加が5億14百万円、法人税等の支払が4億10百万円あったこと等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー 投資活動の結果使用した資金は17億36百万円(前年同期比34.8%減)となりました。これは生産設備の改修、ショールーム移転・改装等により有形固定資産の取得による支出が9億26百万円、情報システム構築に伴う無形固定資産の取得による支出が8億2百万円あったこと等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー 財務活動の結果使用した資金は23億5百万円(前年同期は8億78百万円の獲得)となりました。これは長期借入金の返済による支出が15億7百万円、配当金の支払が6億49百万円あったこと等によるものです。

現金及び現金同等物の中間期末残高 現金及び現金同等物の中間期末残高は前期末比17億52百万円(9.3%)減少し、170億15百万円となりました。

■ 売上高



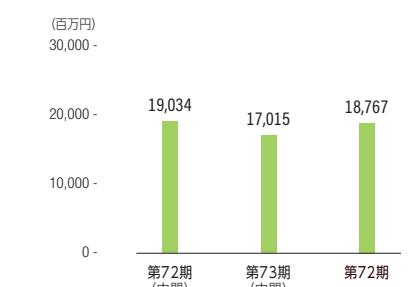
■ 営業利益・営業利益率



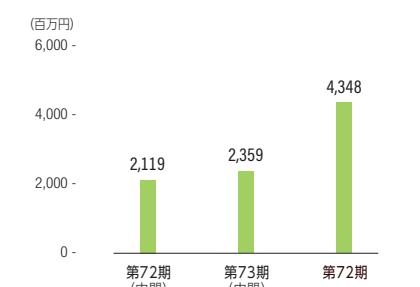
■ 親会社株主に帰属する中間(当期)純利益・親会社株主に帰属する中間(当期)純利益率



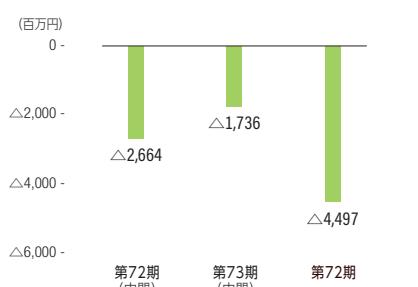
■ 現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高



■ 営業活動によるキャッシュ・フロー



■ 投資活動によるキャッシュ・フロー



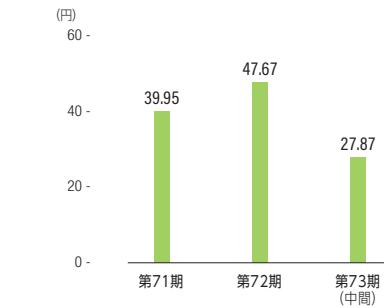
株式関連情報 (2025年9月30日現在)

■ 剰余金の配当について

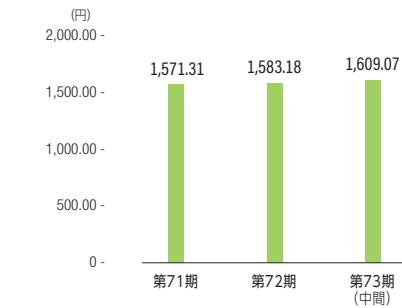
当社は、株主の皆さんに対する利益還元を重要な経営方針の一つとして考えており、配当につきましては、長期的な安定と成長を実現することにより最大の利益をあげ、安定的な配当を長期的に継続していくことを基本方針としております。

以上の方針に基づき、中間配当金は、1株当たり13円とさせていただきました。当期の年間配当金は、中間配当を含め1株当たり31円を予定しております。

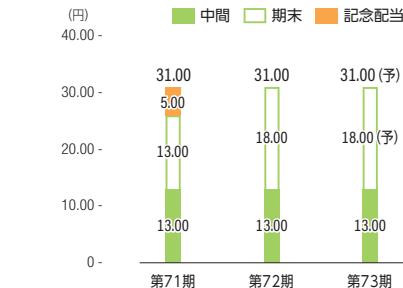
■ 1株当たり純利益



■ 1株当たり純資産

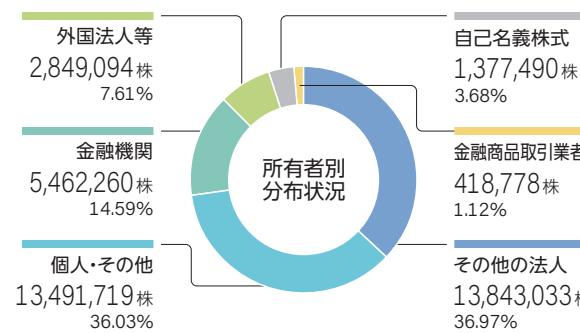


■ 1株当たり配当金



■ 株式の状況

発行可能株式総数	130,000,000 株
発行済株式総数	37,442,374 株
株主数	12,225 名



■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社井上	8,609	23.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,447	6.7
クリナップ真栄会	2,417	6.7
クリナップ共進会	2,254	6.2
株式会社タカヤス	1,885	5.2
クリナップ社員持株会	1,745	4.8
株式会社三菱UFJ銀行	757	2.1
株式会社ミツウロコグループホールディングス	597	1.6
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	555	1.5
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	550	1.5

(注) 持株比率は、自己株式(1,377,490株)を控除して計算しております。

会社情報 (2025年9月30日現在)／株主メモ

■ 会社概要

商 号	クリナップ株式会社 Cleanup Corporation
本社所在地	〒116-8587 東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
創 業	1949年10月5日
会 社 設 立	1954年10月5日
上 場	東京証券取引所 プライム市場 (証券コード: 7955)
資 本 金	132億6,734万円
主要営業品目	厨房機器、浴槽機器、洗面機器、その他
社 員 数	連結: 3,513名／単体: 3,020名
主な事業所	支社: 国内3ヶ所 支店: 国内4ヶ所 営業所: 国内131ヶ所(出張所含む) 海外: 台湾、上海 工場: 四倉、鹿島システム、湯本、クレート、鹿島(いづれも福島県いわき市) 岡山(岡山県勝田郡勝央町) 津山(岡山県津山市)

■ 株主メモ

事 業 年 度	4月1日～翌年3月31日
期 末 配 当 金 受領株主確定日	3月31日
中 間 配 当 金 受領株主確定日	9月30日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場

電子公告により、下記当社ホームページに掲載いたします。なお、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
電子公告掲載 URL <https://cleanup.jp/>

単 元 株 式 数 100株

【株式に関するお手続きについて】

■ 証券会社等の口座に記録された株式
株主様の住所変更、買取り・買増請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等(口座管理機関)にお問合せください。

■ 特別口座に記録された株式

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せください。
--

■ 未受領の配当金

未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せください。
--

【株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関】

三菱UFJ信託銀行株式会社

【同連絡先】

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話: 0120-232-711(通話料無料) 郵送先: 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
--